

生徒の好きや思いに寄り添いながら誰一人取り残さない 安全・安心な居場所作りの推進

不登校生徒の状況

対象生徒は、同世代の友達との話が合わなく、次第に孤立するようになった。苦手な教科から登校を渋るようになっている。集団に合わせるのが苦手である。

具体的な取組

○自信と意欲の向上

当該生徒は、教員等による個別指導と校内別室指導支援員による見守りにより、得意教科の学力が更に向上する等、学習に対する自信と意欲の向上につながった。

また、端末等を活用した学習内容の学び直しを行えるようにした。

○安全・安心な環境づくりを推進

SC、校内別室指導支援員、副校長が連携し、毎週 30 分程度の打合せを行い、個々の状況に合わせた環境づくりを推進した。その結果、校内別室が当該生徒の居場所となった。



○生徒同士で会話を広げる機会

生徒同士が対話する機会を創出するため、カードゲームの時間を設定した。校内別室指導支援員や生徒同士の対話により、当該生徒のコミュニケーション能力の向上につながった。

○学びを止めない環境

校内別室にしながら在籍学級の雰囲気分かるように、授業をオンライン配信した。当該生徒が教室復帰への意欲を高められるよう、校内体制を整えた。

成果

一人で静かに過ごしていた当該生徒が、校内別室で同じような状況の生徒と対話を重ねることで、悩みが軽減され、お互い励まし合いながら学習に取り組む姿が見られるようになった。

友達とカードゲームに取り組むことで表情が豊かになった。

校内別室の利用は、始めは短時間だったが、給食を食べられるようになる等、校内別室を安心・安全な居場所として活用できるようになった。昨年度まで SC とつながろうとしなかった当該生徒が、SC に悩みを話せるようになるなど変化が見られた。

課題

当該生徒の登校状況を踏まえ、今後も校内別室指導支援員が同行する等、当該生徒の教室復帰を積極的に推進していく。

家庭訪問等により、当該生徒の登校を促していく。